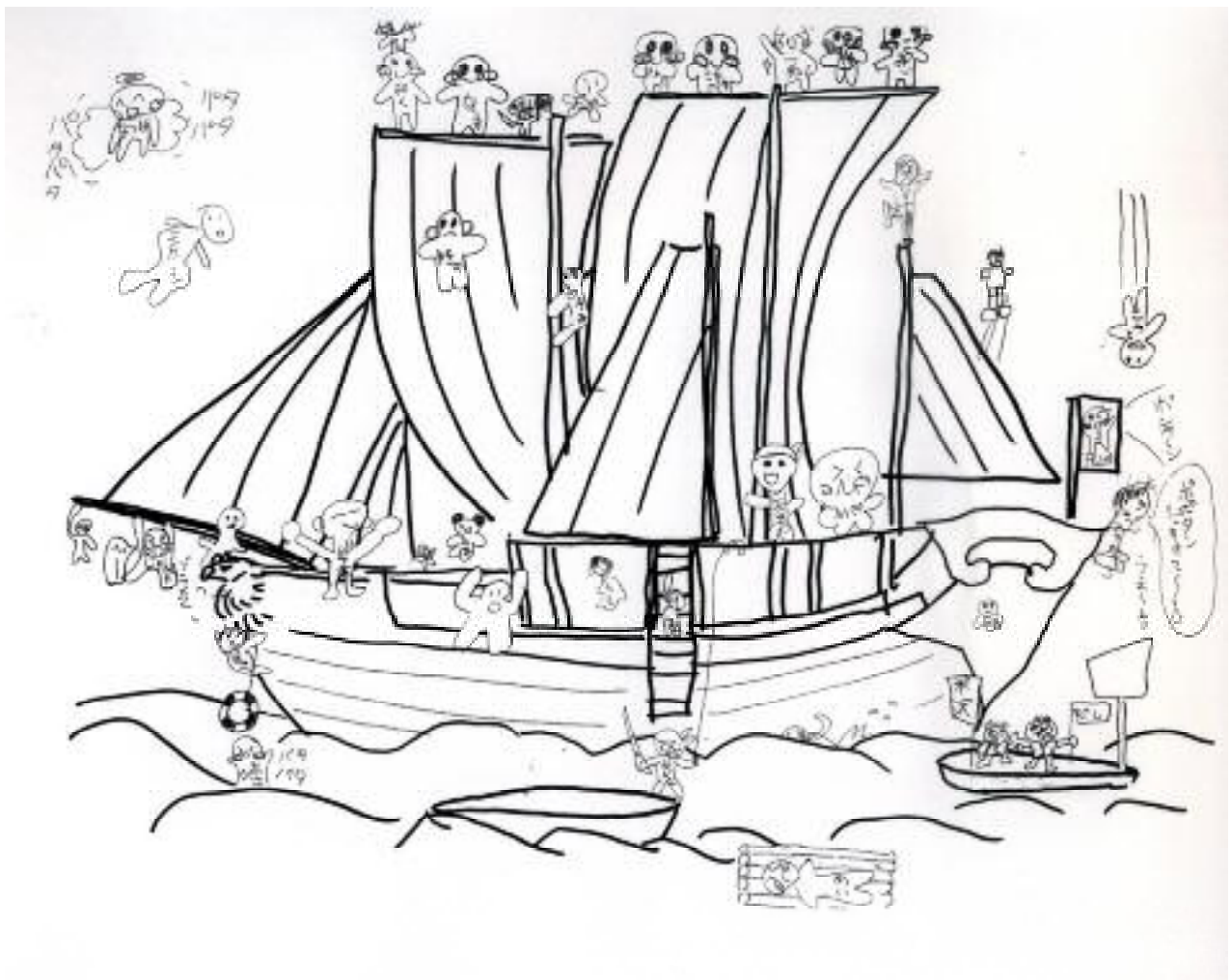


大好き！湊町！！

ー私たちが調べた『湊町』の歴史ー



白山市立湊小学校 4年1組編



はじめに

みんなが暮らしている湊町は「なぜ、湊町っていうんだろう」そんな疑問から、この本は始まりました。となりの美川には港があるけれど、今の湊町には港がありません。「うーん、今湊神社があるからかな？」「でも、今湊って湊町の昔の名前だから、やっぱり“ミナト”があったのかも。」

町に残る古い物を調べたり、昔のことを知っているお年寄りに話を聞いたりして、湊の古い歴史を調べるしかない！というわけで、班ごとにテーマを決めて聞き取り調査をしました。

たくさんの人の協力をいただいて、今まで知らなかったいろんなことがわかりました。せっかくの知識を、これから湊のことを勉強しようとする後輩たちに残すために、この本を作りました。



【班での発表】

目次

0 . はじめに	(1)
1 . 今湊の誕生	(3)
手取川と湊	
2 . 木曾街道のこと	(4)
木曾義仲って知っていますか	
3 . 願隆寺と今湊神社	(5)
湊に残る古い建物	
4 . 湊川の戦い	(7)
上杉謙信と織田軍が、手取川で戦った！！	
5 . 北前船と湊町	(9)
湊町を大きく変えた北前船	
6 . 昔の湊のことについて	(13)
昔の湊町はこんな町だった	
7 . 手取川の渡し船について	(14)
江戸時代、手取川には一つも橋がなかった	
8 . 湊の偉人 熊田源太郎	(15)
明治・大正の湊の発展を作り出した人	
9 . 湊と船乗りさん	(17)
北前船の伝統を受け継ぎ、世界の海へと乗り出していった人たち	
10 . 湊町の開田につくした中村市松	(19)
湊の暮らしをよくしようと、砂丘を田んぼに変えた人	
11 . 日本の渚100選 小舞子の浜	(21)
昭和の初めのリゾート開発が今に	
12 . 現在の湊町	(22)
未来の湊小学校の人たちのために、今の湊町を伝えます	
13 . 湊小学校の誕生と今まで	(23)
湊小学校。自然にここにあったわけではありません	
14 . おわりに	(25)



【湊のこと教えて！】

今湊の誕生

今から800年前、湊町は“今湊”と呼ばれていました。

なぜ、[今] 湊なのか、それには湊町誕生のこんなわけがあるのです。



手取川扇状地の航空写真 (YAHOO地図より)

←これは、手取川扇状地の航空写真です。

左上に日本海、右下に白山へと連なる山々、そして、その間に大きく広がった加賀平野が見えます。

湊町がどの辺にあるか、わかりますか？（指さしてみよう！）

写真の真ん中より少し下に、長く伸びている手取川が海に流れ込んでいる辺りの左岸が湊町です。

(C)Geoscience,NTT DATA,RESTEC/Included(C)JAXA



黄色くぬったあたりは「手取川扇状地（てどりがわせんじょうち）」といわれ、手取川が昔から大洪水を起こしながら、土砂を運んで作り上げてきた平野です。その間、手取川は手取川扇状地の中を、洪水のたびに流路（流れる場所）をかえながら流れていました。

今から1000年前の平安時代、手取川は比楽河（ひらかがわ）と呼ばれていました。そして、その河口には

“比楽湊”という町があったそうです。（ひらか）^{ひらかまち}という、平加町が想像できます。つまり、その頃には手取川は今の平加町の辺りを流れていて、今の湊町のあたりには大きな川が流れておらず、今のような湊町もなかったと思われます。

今から800年前に書かれた歴史の本「源平盛衰記」^{げん ぺい せい すい き}に、初めて“今湊”という地名が現れます。たぶん、この200年の間に手取川の流れが変わり、手取川が今の場所を流れるようになって、船の湊も湊町の方に移ってきた。だから、新しい湊という意味の“今湊”という地名になったのだと考えられます。

湊町の誕生は、手取川や船の湊と、深い関わりがあるのですね。

木曾街道のこと

今の北陸自動車道と同じように、湊には北国と都を結ぶ、大切な道が通っていました。

1183年、平氏（そのころ京都にいて、日本中の政治を行っていた）を討てという以仁王（天皇の皇子）の命令を受けて、木曾（いまの長野県の南部）にいた源義仲（みなもとのよしなか：源頼朝／義経のいとこ、木曾義仲とも呼ばれる）が大軍を率いて都に攻め上りました。津幡の倶利伽羅峠で平氏の軍を打ち破った義仲は、松任から手取川を渡って小松へとすすみ、ついに京都に行って平氏を京都から追い出します。その時、通った道を“木曾街道”と呼ぶようになったのです。

木曾街道は、松任から宮保、笠間を通過して、美川につながっています。

そこから、今の美川大橋の少し上流を船で渡って、海岸の松林の中を通過して、根上の方につながっていたと考えられます。（1区から学校の前を通過して、7区の方につながる道を木曾街道と考える人もいます。こちらの道も神社やお寺、そして町並みを考えると、古くからあった大切な道だと思われます。）

たくさんの軍勢を従えて意気揚々と行進する木曾義仲の軍勢、たくさんの荷物をかかえた商人、遠くの国に旅する旅人たち。そんな人たちが湊を通過していく様子を想像するのも楽しいですね。



【手取川河口の湊の様子】

願隆寺と今湊神社

町に残る古い建物といえば、まずこの二つがあげられます。
この二つの建物について調べてみました。

願隆寺 誕生！！！！



【願隆寺の本堂】

願隆寺は、湊町の人たちの信仰を集める由緒あるお寺です。願隆寺は1544年に、教誓というおぼうさんによって建てられました。戦国時代にたてられて、そのころは、織田信長が赤ちゃんのころだったそうです。

初めは真言宗（空海さん：弘法大師が開いた）のお寺として建てられましたが、願隆寺と名前がついたのは、1630年（江戸時代の初めのころ）に浄土真宗（親鸞聖人が開いた）のお寺になってからです。



【遭颶紀念之碑（そうぐきねんのひ）】

願隆寺の境内にあるこの碑は、明治25年に建てられました。次のようなことがきざまれています。

- ・湊には400戸の家がありほとんどが船を職業としている
- ・男は200日は海に出て、家にはもどらない。
- ・明治24年の台風で湊村の者40人がなくなった。
- ・文政・天保以降になくなった人も多い、ここに碑を建てた

湊にたくさんの船乗りがいて、みんなが海を生活の場として生きていたことが、この石碑からもわかります。

三つの社からなる今湊神社

古い社殿・・・今湊神社

今湊神社が立てられたのは1822年。美川で一番古い建物です。昔は、八幡様と言われていたそうです。八幡様には、八幡様と白山様が神社にはいていました。そして1822年には、まだ今湊神社と言われてなくて、八幡宮白山権現（はちまんぐうしらやまごんげん）といわれていて、1870年に今湊神社と名前が付けられました。

神社の入り口には石碑が建てられていて、神社の由来が書かれています。今湊神社の拝殿は1700年頃にはもう建てられていて、今から約300年前の建物です。



船乗りの神様・・・金刀比羅宮

金刀比羅宮ができた理由は、昔、湊には船乗りさんがいっぱいいて、船にのっている時、台風で船がしずんだりするから、船を守ってもらおうと船乗りの神様＝金刀比羅宮を作りました。

今の場所に金刀比羅宮が建てられたのは1872年だそうです。

神社の灯籠は灯台の形をしていて、「日の本のおことわれも うみにすむ

いずくのなみに くだけちるとも」という歌がきざまれています。（現在の建物は1940年にできました。）



梨木町の歴史を伝える…梨木神社

昔、梨木町という、手取川に近い町があつて湊の人が、梨木町に移り住んでいました。手取川のこう水で、梨木町も神社もあぶなくなつて、人々が湊にもどる時に神社もいっしょに運んできました。それで、今湊神社の中に、「梨木神社」という神様がきたそうです。

湊川の戦い

1577年、手取川の河原で
戦国大名上杉謙信と織田信長の軍が戦いました。

1577年手取川で上杉謙信と
織田信長軍との戦いがあった。

越後（今の新潟県）の上杉謙信
が大軍をひきいて七尾城を攻めま
した。そして、その七尾城を守る
ために織田信長は柴田勝家を大将
に、大軍をおくりました。でも織
田軍が七尾城につく前に七尾城は
落城。それを知った柴田勝家が引
きかえすとちゅうに、七尾城から
やってきた上杉謙信が織田軍に追
いつき、手取川で柴田勝家たちに
襲いかかりました。



【手取川の河原】

「上杉に おうては織田も 手取川 はねる謙信、逃ぐるとぶ長」

この石碑は、呉竹文庫の坂道をのぼった所にある駐車場にあります。
石碑は二つに分かれていて、一つは織田信長と上杉謙信の戦いがくわし
くかいてあって、もう一つは、はねる謙信逃げる信長という歌が、かい
てあります。はねる謙信逃げる信長という歌は、あっとうてきに上杉謙
信がゆうりで、それから逃げる信長という意味でこの歌が作られました。



【石碑と狂歌】

織田信長と上杉謙信はだれだろう？

織田信長について

織田信長は1534年に生まれた戦国時代の武将です。14歳で今川氏と戦いました。

1559年に尾張国（愛知県）を統一し、1560年に桶狭間の戦いで、今川義元の軍をやぶった。1567年に美濃国（岐阜県）を支配下に入れる。1570年の6月に、姉川の戦いで、浅井、朝倉連合軍をやぶる。

1572年の12月三方ヶ原の戦いで織田、徳川連合軍が武田信玄の軍にやぶれる。

1575年には、長篠の戦いで武田勝頼を破り天下統一に王手をかける。

そのあと、1582年に部下の明智光秀におそわれ（本能寺の変）、自害（自殺）したが、部下の羽柴（豊臣）秀吉が光秀を倒し、天下統一を果たした。



【織田信長】

上杉謙信について

上杉謙信は、元の名は長尾景虎。長尾氏は、越後（今の新潟県）の守護の上杉氏守護代をつとめる家がらだった。

長尾景虎は、若いころから仏教を深く信じ、また、自分を信じて頼ってきた者を決して見捨てない、信義にあつい人物だった。

1552年、北条氏康に関東をおわれ、自分を頼ってきた関東管領の上杉憲政の願いを受け、関東へと出陣。それ以降景虎と北条氏との戦いは、14回におよび、7回は関東で冬をこし、1561年には敵の本拠地の小田原城を包囲するところまでいっている。

この年に景虎は、こうした行動に感謝した上杉乗政から関東管領の地位と、上杉の姓をゆずられた（その後、出家して謙信を名乗る）。

武田信玄との川中島の戦いは、戦国時代の大きな戦いとして有名。



【上杉謙信（右の人）】

北前船と湊町

江戸時代から明治にかけて、湊と本吉（美川）は北前船の重要な湊でした。
その北前船について調べてみました。

日本海を行き来した北前船

北前船とは、「**買い積み（かいづみ）**」をする和船のこと。

大阪から瀬戸内海をまわり、日本海の町で買ったり売ったりしながら、蝦夷地（今の北海道）まで、行き来していたそうで、**海の上のデパート**ともいわれていたそうです。

北前船が運ぶものは、米、酒、油、塩、ニシン、コンブ、もめん、せもの、古着、石材など。北前船が始まったのは江戸時代だそうで、そのおかげで、湊村はお金持ちに、なったそうです。

北前船が湊からお米を運んで、
それをまた北前船で北海道まで売りに行って、
その売ったお金で北海道とかにうっているものを買って、
それをこんどは大阪へ持って行ってそこで売って、
その売ったお金買った大阪の物を、また、どこかで売って、
そこでまた買って、それを湊で売って、また湊でお米をつんで、
こんどは青森とかそういう所へ行ってまた売って、
そのお金でその物を買って、またちがう所へ行って……、

そういうことをくり返して

北前船【海の上のデパート】は商売していました。



【北前船の写真】（呉竹文庫）



【今湊神社に納められた船絵馬】

どんな人が北前船に乗っていたのか？

北前船にはこんな人が乗っていました！！

船頭さん（船長さん）船の最高責任者

知工さん（事務長）会計の責任者

表さん 航海士

片表さん 表さんのフォロー

親父さん 若衆以下の労働管理者

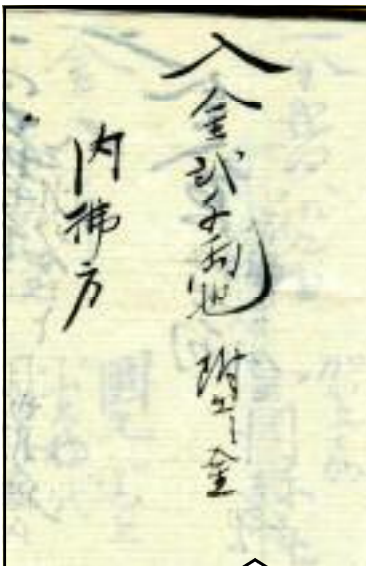
若衆さん 航海作業一般

炊さん 食事などの雑用

え
ら
い



荒尾さんの家は
代々船頭さんを
していたそうです



村井家（船主）文書より
『勇力丸』出納帳
「入金 2 千両なり」

（今のお金でいうと
2 億円！！）

船乗りたちの一年（『湊村の歴史』より）

2 月～3 月

2 月 1 1 日に今湊神社で船手祭を行い
航海の無事を祈った後、家族と水さかず
きを交わし、船主にあいさつをして、
歩いて大阪に出発。

水さかずきは、遭難して帰れないかもしれないから
大阪に行くのは、冬場、日本海は荒れるので、
船を大阪に置いてあったから

大阪で出船の準備。船を直したり、
蝦夷地で売る荷物を仕入れたりした。

3 ～ 4 月～

大阪を出帆。瀬戸内、山陰、北陸、
東北と商売をしながら蝦夷地へ。

蝦夷地で商売の後、大阪へ向けた荷物
を仕入れ、逆ルートで大阪に向かう。
台風の季節がくる前に、瀬戸内海に入る。

1 1 月～1 2 月

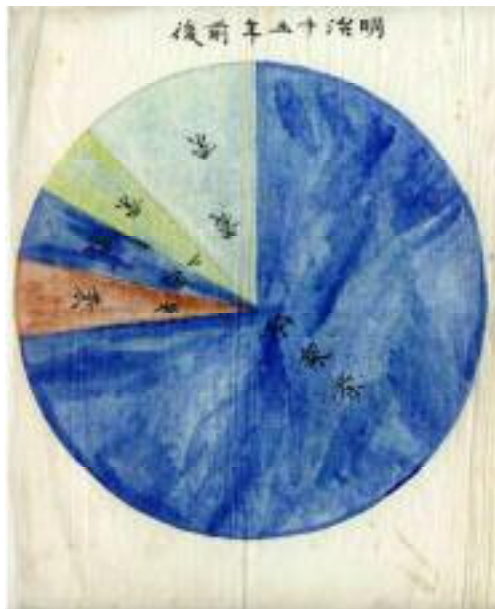
大阪に帰る。船の片付けをして、歩い
て湊に帰る。船主にあいさつをして、
帰宅。

湊の北前船船主と船の数

文政6年には、
船に乗っている船乗りさんは357人
船を持っている人の数は、30人
船の数は、64艘

文政とは
1818年から1829年まで
(江戸時代)

そのころの湊の人口は1848人
1848人の中に、
357人の船乗りがいた！！
ということだ！？



←これは明治15年湊小学校保護者の
職業を表す円グラフ。
(校長室にあった湊小学校沿革史より)

船乗りが73パーセント
漁業をふくめると
4分の3の保護者が
船に乗って生活している！！

**湊町の人たちは
海に乗り出して
暮らしていたんだ**

7区のヒミツのほくら

湊になぜ？ほくらがあるのか！？

香川県のこんぴらさんと言う海の神様を、
持ってきて、小舞子の海を守ってもらおうと、
7区に置いたそうですこのほくらは、明治時代の
初め頃に、作られたそうです。
もともとは、松沢さんの家の前に、あったそうで
が、今の土地は、佐武さんの土地だそうです。
こんぴらさんが、引っこしたそうです。
(熊田さんの家の裏から行けます…ウルシに注意！)



【7区の祠】

北前船の船乗りのお給料は何万円なの～？？

北前船船乗りの一年間の給料は・・・・・・
10～20万円！！

安いけど、船にはルールがあって、つめる荷物の10分の一は船乗りが自由につんでよかった。そのスペースをつかって、自分で、品物を、売ったり、買ったりして、お金を、貯めていたそうです。

もし、船の全体のもうけが、2億円だしたら、2200万円をこすお金が船乗りのものになったはずです。乗組員が5人ならば、

一人分は、440万円になります。

だから、給料の10～20万円+440万円で、
460～470万円！！かな



【村井家文書より】

湊に湊が、あったのに、どうしてなくなったのだろうか？？

昔の船はみんな小さくて、湊村の湊にも（湊というのは、船が集まる場所という意味）船が集まってきていたけど、大きな船ができてからから（北前船のような和船から、洋船に変わって）湊村には入ってこなくなりました。わけは、湊村の湊に船が入って来ると、船のそこが川底について、船がこわれてしまうからです。だから、そういう大きな船は、港（大きな船が集まる所）に入るようになって、大きな船ができてから、湊村の湊には入ってこなくなりました。



和船から→

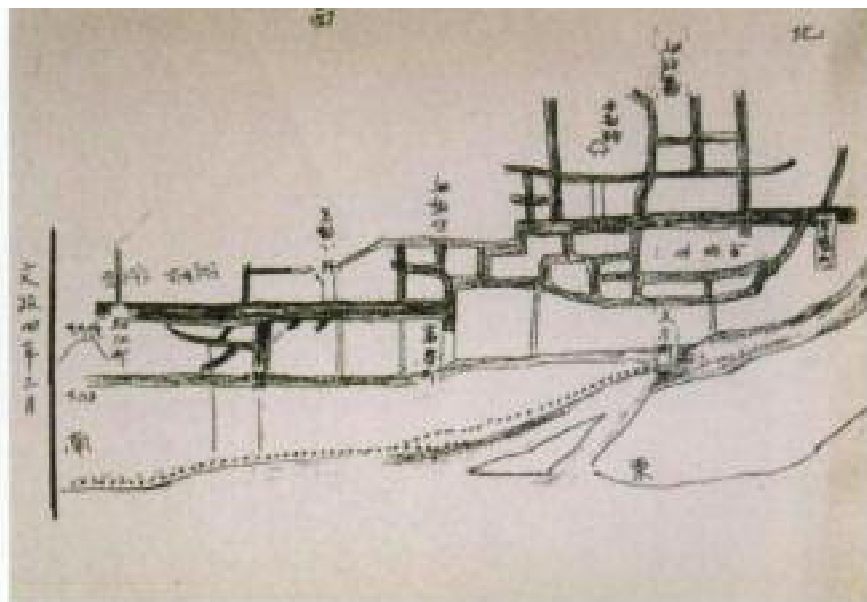


洋船へ

昔の湊のことについて！

昔、この町は、湊町・・・じゃなくて湊村とよばれていました。

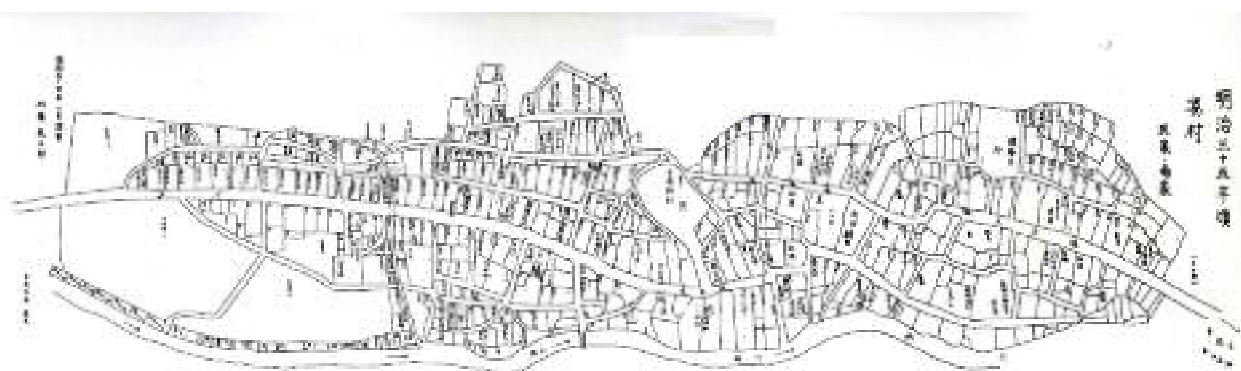
今は、1区・2区というふうに分けられているけれど、昔は、富春通り・松栄通り・常盤通り・久方通りと呼ばれたり、久方町・常盤町・松江町・鷺羽町・永昌町・石塚町・邑安町・全奥町という9つの町名で呼ばれたりしていました。



湊村古図写（美川町中央図書館所蔵）

文政四年の湊村の地図
町の名前が書かれています。
みんなの家は何町？

明治35年の湊町の様子



【加藤熊五郎さんとい方が調べた、明治35年頃の湊町の様子】

手取川の渡し船について

渡し船は、昔、手取川に橋がなかったとき、
旅人や人々を有料で運んでいました。

手取川には、渡し場が5か所あって、湊にも1か所ありました。
前さんの家の横を降りていった所に、湊の渡し場があったそうです。

湊村の渡し場は

船が2そう

水主（かこ：こぎ手）12人

手取川の渡し場で一番大きい！



【川渡しの図】（金沢玉川図書館所蔵）

渡し場の決まり

- ・サムライや奉公人は無料
 - ・船賃は高すぎてはならない
 - ・夜中でも船を出さねばならない
- （1674年の加賀藩の決まり）



渡し船模型（金沢市立博物館蔵）

湊の古い地名

大田山（おおたんやま）

アイテックス前の水道タンクのある山
昔、火葬場があった

粟田山（あわだやま）

保育園横の山、熊田源太郎のお墓がある

裏島（うらじま）

鉄橋の近くの畑があるところ

昭和9年の手取川大洪水で、土砂がたまった

表島（おもてじま）

手取公園の野球場がある辺り

岡田（おかだ）

熊田川と西川の間の田んぼ



【大田山】



【粟田山】



【裏島】

湊の偉人 熊田源太郎

北前船の船主の家に育ち、回漕業だけではなく、
大地主、事業家として湊や加賀の発展に努力し、
呉竹文庫を残した熊田源太郎



熊田源太郎さんは、北前船をもっていて、
北前船の船主でした。

いろいろな事業をしていた源太郎さんは、
自分の土地をつなぎ合わせると、ほかの人の
土地を通らずに鶴来までいけるほど、た
くさんの土地を持っている大金持ちでした。

寺井に倉庫（ものを倉庫に運んでいって
売ったり買ったりできるもの）を作って、
農民が自分で作物を売りさばけるようにし
たり、昭和9年の手取川の大洪水で大変だ
った時に湊の村長をやったりと、地域にこ
うけんしていたそうです。

源太郎の日就会

日就会とは、源太郎さんが船乗りさんたちに外国航路の船員となる勉
強をしてもらうために、つくった会です。船乗りさんのためにお金を寄
付したのです！

また、日就会からは、大学の先生や裁判官など、東京で活躍する人も
出るなど、町の多くの人がここで学び、町の人たちのために役立ちました。

船員になるためには勉強が必要！！

「船員を志す男子は西洋形船の初歩的な航
海術を学ぶために高等小学校を卒業すると
すぐに、下級船員として船に乗り込んだ。
・・・しかし、数年の航海で航海術を体得
した下級船員たちは、高等海員試験を受験
するにおよんで、初めて学力不足を痛感す
ることになった。」（『湊村の歴史』より）

高等海員試験を受験することで、
甲種船長、一等航海士という責任のある
仕事につける！



【日就会館があった辺り】

呉竹文庫

呉竹文庫は、熊田源太郎さんが作った図書館です「私はしみになりたい」という文字が胸像にきざまれています。(しみとは本にはさまっている虫)この図書館は大正4年4月にたてられて、本の数8688冊で、1年間のいじ費(働いている人の給料や庭の手入れなどに使ったお金)は1年間に2000円(大正4年：現在のお金でいうと6000～700万円)で利用した人は、年間2500人です。大正時代の青年活動の中心でした。

図書館に入れられた本は、源太郎がきょう味を持っていた仏教や和歌の本だけではなく、その当時のベストセラーや社会問題、百科事典など、町の人々が本に親しんだり、勉強をしたりするのに使えるものが選ばれています。ここからも、源太郎が自分のためではなく、人々のために図書館を建てたことがわかります。



【呉竹文庫の胸像】



【源太郎が寄付した東本願寺玄関門】



【呉竹文庫の応接室】

北前船の船主さんたちは お金持ち

熊田源太郎さんは京都の東本願寺に今のお金で2億円にもおよぶ門を寄付したのです。

寄付したわけは、自分も船乗りたちもお参りする本願寺をよくするために、門を寄付しました。でも源太郎さんは、お金持ちだからこそ、本願寺に門を寄付したんだな。でも、そんな事は昔の湊だったら、当たり前だったからこそだったからだよね。

村井吉左衛門(きちざえもん)さんは、なんと！熊田源太郎さんと一緒にこの湊小学校をたてるためのお金をきふしてくれたのです。それに村井さんの家には北前船を6そうももっていて、お金もザルでさらえて千両箱にいられたんだそうです！！

本当に源太郎さんたちは本当にお金持ちだったんだ～

湊と船乗りさん

私たちのおじいさんひいおじいさんの頃は、湊にたくさんいた船乗りさん
昔、船に乗っていた人たちに話を聞いてみました。

－船のりさんのお話1－ 7区の安江さん

安江さんは17才ぐらいで船員さんになったそうです。安江さんが船のりさんになったきっかけは、有名な船長にあこがれたからだそうです。

給料は学校の先生より高くて、ふつうの陸の仕事の3倍の給料がもらえたそうです。

安江さんは石油を運ぶタンカーに乗っていて、一そうのタンカーに、昔は50人くらいだったそうです。今は16人くらいの方が乗っています。



【地球儀で説明する安江さん】

(今はだいたいがコンピューターで動く)



【安江さんの乗っていたタンカー】

船員さんたちは4時間働いて8時間休むというふうに仕事していたそうです。船の大きさは、重さ24万トン・長さ330メートル・はば65メートルだそうです。

安江さんが乗っていた船では、広い甲板で運動会が開かれました。競技は、アメひろいなどがありました。

－船のりさんのお話2－ 3区の今村さんのおじいちゃん

(おばあちゃんに聞きました)

今村さんのおじいちゃんは、甲板長という仕事で舵や、整理をしていたそうです。舵(かじ)というのは、方向を変えたり運転をする人です。荷物を運ぶ船に乗っていたのだそうです。



【今村さんのおばあちゃん】

今村さんのおじいちゃんが、船乗りになったわけは、給料がたかいし船がすきだから船乗りになったそうです。なぜ給料がたかいかというと湊には、職業が少ないから、大半の男の人は船乗りの仕事しかなかったそうです。1月11日に、船手祭という大イベントがあり、船乗りの妻たちが中心になって船の安全を祈ったのだそうです。今村さんのおじいさんが船に乗っていたころには、湊だけで100人の船乗りさんはがいたそうです！

－船のりさんのお話3－ 十区の二口さん

二口さんは、36年間にいろんな船に乗った。たとえば、「客船や、貨物船や、コンテナ船とかに乗ったな〜。」と話していました。



【二口さんと森田さん】

船員になったばかりの時は、船酔いがすごかったけど、1年ちかく乗っていたら船酔いになれたと言っていました。二口さんは船技長のなかでも、電気の仕事をしていたそうです。

昔は、船のりさんが多く、昭和30年くらいには130人も船のりさんがいた。

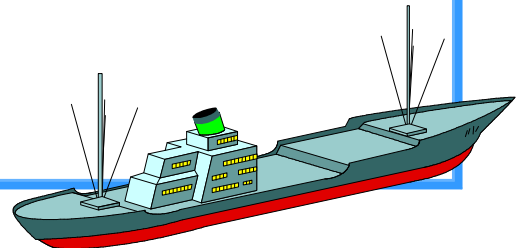


－太平洋戦争と船のりさん－

太平洋戦争が始まると、湊村の船員は戦争で使う物を運ぶ船の船員として戦争にいました。

戦争に負けてくると、ゆそう船は敵の攻撃を受けてたくさんしずみました。湊村の船員は23人が戦死したそうです。

湊村から戦争に行った人たちは、中国・フィリピン・ベトナム・インドネシア・東南アジア・グアム・サイパンなど、西太平洋の戦争に送られました。また、湊国民学校（湊小学校）の先生たちも戦争に行きました。森田さんのおじいさんも、海軍の軍人さんとして戦死されたそうです。



湊と船乗りさん・・・

北前船で船のりさんが多く、もともと北前船で生活していた人が多かった。また北前船がなくなると、熊田源太郎さんがお金をだしてくれて、外国航路の船員になるための勉強を助けてくれたから、船のりさんが多かった。

昭和になってからも湊村は、仕事がなくてまずしかった。船のりさんの給料が高いのを見て、農家の息子も、勉強して船のりさんになろうと、思ったのでしょう。

湊町の開田につくした中村市松

湊町の12区の、健康増進センターにたつ、【中村市松開田記功碑】は、みかげ石でつくった、高さ2メートルあまりの石碑です。



この石碑は、昭和3年に湊町で、いち早く農地開拓を行った、【中村市松翁】の偉業をたたえる顕彰碑なのです。

碑には、『中村市松開田記功碑』の9字が刻まれています。

石碑は、【中村市松翁】が、一生かけた、努力のあとの水田があった場所をのぞみながら輝いています。

その、記功碑『中村市松開田記功碑』が立っている場所の前の通りは、昔水が流れていました。それは、まるで、【中村市松翁】の記功碑が、その水の流れを、見守っていたかのようです。

市松の挑戦

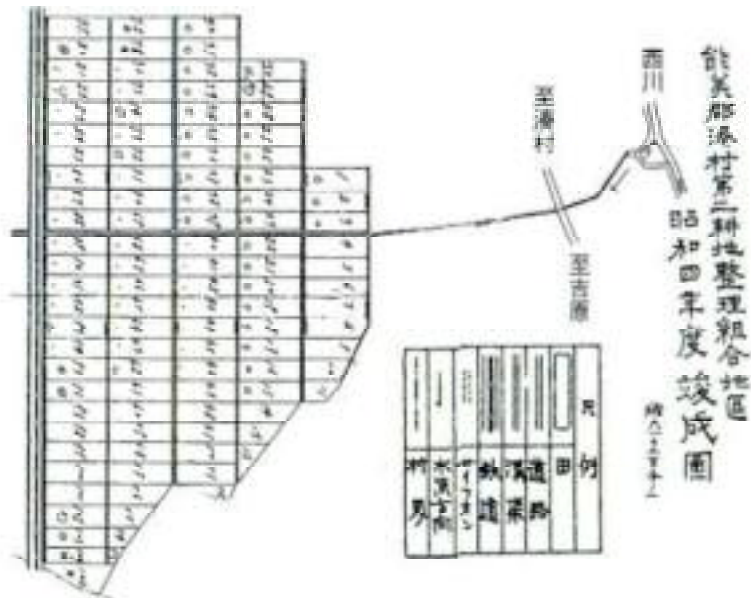
北前船がなくなり、稲を作る田んぼも少ない湊町。豊かだった町も、昭和の初めには生活が苦しくなっていました。



【湊古地図】

そこで、中村市松さんは知人の新竜造さんと相談して、湊村海岸付近に広がる二人の土地、砂丘林20町歩を水田にすることを考えました。

中村市松さんは、若い頃から外国航路の船員として働き、船長を最後に退職。湊にもどってきてから、浜田の開発に努力しました。（「翁」はおじいさんという意味）



完成した浜田図（昭和6年、畑尚治氏所蔵）

昭和4年2月に工事を始め、村人が思ったこともない砂丘地を水田にすることをかいました。その計画のむぼうさに「できるものか」などといって工事をやめる人もいました。市松は一人1日90銭の給料で、となり村の吉原・赤井村や朝鮮から日本に来ていた人たちに助けをもとめました。

工事が完成し、揚水25馬力のポンプで、一日もやすまず揚水（ようすい：水を上げること）しました。晴天続きと、いうこともありましたが、2日・3日・4日になっても、田面は、真っ白で每秒6合の水もすぐに砂に吸いこれ、満水になるのはいつのことかと、思われました。

しかし、5日の朝になって、田んぼの面に水がたまり始めました。みんな、勇気づいて一生けん命水を上げ、作業を続けたところ、次の田は満水になり、農家の人たちの協力をえて、田植えを終えました。

秋の収かくは、豊作で、一歩あたり9合のお米が収穫でき、成績もいいお米がしゅうかくできました。



【水田や水路があった場所】

日本の渚100選 小舞子の浜

手取川河口の小砂利の浜が、小舞子の浜として有名になるには、こんな歴史がありました。

明治30年（1897年）美川で旅館業をしていた餅田半次郎という人が、湊の浜の美しさが舞子の浜（いまの兵庫県神戸市の浜）に似ているとして、**小舞子の浜**と名付けました。

その後、7月から9月初めの夏場だけ汽車が止まる小舞子駅が設置され、小舞子リゾート開発（？）がすすめられます。



【夏だけの小舞子駅】



【昔の海水浴のようす】



【たくさんの浜茶屋】

小舞子駅の設置で、松林のあちこちに、浜茶屋や休憩所が建てられました。

湊からは、村井屋・中村屋・寺尾屋・豊島屋の4軒、その他美川や小松の商店も浜茶屋を開き、最大で20軒もの浜茶屋やお店が営業していたそうです。それだけたくさんの人たちが、小舞子に海水浴に来ていたといえます。

湊小学校と小舞子浜

昭和10年（1935年）、松林の中にプールが作られました。（水は海水）このプールはやがて砂に埋もれて使われなくなりましたが、戦後、湊小学校の水泳の授業をするために、プールが掘り起こされ、使われたこともあったそうです。今、キャンプ場の駐車場がある、高速道路のわきの辺りです。



【小舞子児童プール】

現在の湊町〈平成20年の湊町〉

平成20年の湊町は、田んぼが少なくなり、家が多くなりました。

- 1区は、願隆寺と、熊田源太郎さんのお墓があります。
- 2区は、昔からの家が、いっぱい建っています。
- 3区は、今湊神社と、銭湯があります。
- 4区は、児童館と散髪屋さんが、あります。
- 5区は、ひばりの公園と、小舞子駅と、たわら薬局と、公民館と、そろばん塾があります。
- 6区は、森商店というお店と、堀抜きという地下水と、学校があります。
- 7区は、アイテックスの工場と、あねざきという会社が、あります。
- 8区は、昭和精工と鋳造工場と組み立て工場と大栄とシコーがあります。
- 9区は、和菓子屋と大日本インキと区民会館と習字教室があります。
- 10区は、たくさんの家と区民会館と広場と、木工所が2軒あります。
- 11区は、11区の広場と11区公園と自衛隊の官舎が2棟と、リフレッシュセンターと県水産総合センターと総合グランドがあります。
- 12区は、前は、中村市松さんが12区を全部田んぼにしたけど、今は、健康増進センター・デイケアサービスと、足湯と家ばかりになってしまいました。今年もたくさん家が建ちました。

掘り抜き！平成の名水100選！

掘り抜きとは、湊に流れている地下水をくみ上げている場所のことです。なんと白山から、100年もかけて湊町にきた地下水なのです。その掘り抜きは湊に一つではありません。なんと、五つもあるんです。しかも、名水100選に選ばれるほどおいしい水なんです。

でも、今は、大きな工場が水をくみ上げるので、地下水はどんどん少なくなってきてしまっているのです。



【呉竹水荘】

平成の名水100選に選ばれたほどのきれいな水だから、なくしてしまったら、とっても、もったいない！！
地下水を取りすぎたりしないように、していきたいですね。

みんな大好き！足湯！

健康増進センターにある、まーるい足湯。いつでも、町の人たちでにぎわっています。あんまり知らない人でも、気軽に話せて、なかよくなってしまうのが不思議です。

フードがあって、冬でもぽかぽかです。



【足湯】

湊小学校の誕生と今まで

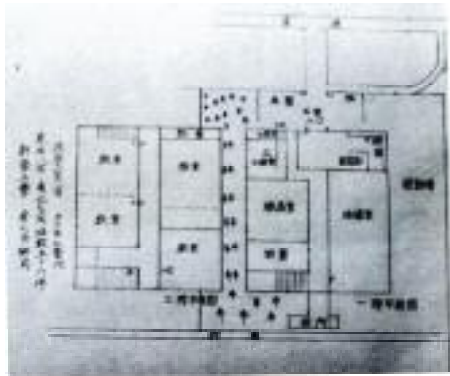
私たちの学ぶ湊小学校は135年の歴史があります。
その歴史を見てみよう。

湊小学校の誕生 明治5年（1872年）

明治5年8月、明治政府が学制を決め、全国の町村に小学校の設立をすすめましたが、石川県内で実際に設置できた小学校は22校だけ・・・なんとその一つが湊小学校でした。熊田・村井家をはじめ、村のお金持ちがお金を出し合って、小学校を設立したのです。（明治5年には区学校と呼ばれていた。）

翌年、湊村役場を使って授業が行われるようになりました。
（湊小学校の名前になったのはこの時）

校舎が今の場所に立つ 明治11年（1878年）



【2番目の校舎】

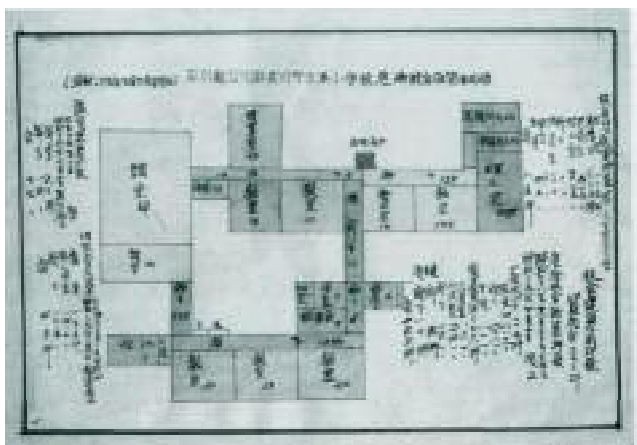
初めの校舎が明治9年の大火事で焼け、湊町力307番地に校舎が建てられました。

あんまりおおきくなかったんだと、思います。1階は、職員室と、体育館が、ありました。2階には、教室が4つしかありませんでした。初めは、すごく部屋が少なかったんですね。

この時も、熊田さん村井さん橋さん島野さんをはじめ、村の有志の方たちの寄付で校舎が建てられました。

校舎が大きくなる

大正4年（1915年）



【大正にできた校舎の平面図】



【大正4年にできた校舎】

屋根はカワラで、2階建てでした。校舎は、今のジャングルジムの方に建てられていて、校門の次に運動場があって、その向こうに校舎がありました。

太平洋戦争があったころの校舎はこれで、ここで、勉強した人たちが、たくさん戦争にいったのでした。

今の校舎が建てられる

昭和45年（1970年）



今の校舎が建てられたのは1970年、今から38年前です。みなさんのお父さんお母さんで湊小学校を卒業した人は、この校舎で勉強したのですね。

新館が建てられたのは、昭和55年（1980年）のことです。

左の写真の体育館は、今の体育館と違いますね。これは、昭和58年（1973年）に建てられた体育館です。

しかし土台が弱く床が斜めになってしまいました！？

・・・ということで体育館に全校がならんだりしたら！？みんなたおれないようにがんばっていました・・・。

ふつうに立っていると、ななめになってしまうのです！（汗）

というわけで、新しい体育館建設をみんなで美川町に働きかけました。



【校舎と一緒に建てられた体育館】



【新しい体育館】

町のみんなが学んで、
町のみんなが大切にしてきた湊小学校。
今、湊小学校に学ぶみんなが大人になっても、
大切に守り育てていってくださいね。

取り壊された体育館はなんと！平成11年（1999年）に建てかえられました！！
このころに、新・体育館の下に

第2ピロティが！！

そうか、このころできたんだねえー^^

またプールも傾いたので、平成16年（2004年）に新しいプールになりました。



【きれいな体育館】

おわりに・・・この本を作ったみんなの感想

- ・湊町は少し小さいけれど、昔はこんなにたくさんの方があったんだよって伝えたいです。(望海)
- ・この本を作って、湊のことがよくわかったし、県などについても調べたくなりました。(里実)
- ・この本を、次の時代の人、次の次の時代の人・・・とまわしていったほしい。(碧衣)
- ・ご先祖のみなさま、私たちにいろんなものを残してくれてありがとう。
(萌)
- ・昔の人たちが好きだった海、私も好きになりました。(未来)
- ・森田さんや安江さんにたくさんのお話を聞いてもらってできあがったから、うれしいな。(美咲)
- ・自分たちでこんなにも調べられて、私たちってすごいな。(美希)
- ・湊の歴史はこんなにもすごいので、見てください。(優貴)
- ・湊のために精一杯がんばってくれた人たち、ありがとう。(莉菜)
- ・昔の人は出かせぎに出て行って、大変だったんだな。寂しかったと思うな。(里奈)
- ・この本を作って、やり始めたことを最後までやりこなせるようになったよ。(亜紗佳)
- ・もっと、もっと、歴史が知りたくなりました。(夏帆)
- ・昔のことは、おもしろいよ！(萌華)
- ・がんばって調べたよ。(雪乃)
- ・インタビューをしてたら、少し話す自信がついた。(仙司)
- ・ご先祖にも、この本を見てもらいたいな。(海大)
- ・がんばった。歴史のことがわかった。(滉人)
- ・学校の横の坂道が昔はなかった！びっくり！(英吉)
- ・将来の4年生たちが、この資料を見て、『湊』の町のことをしってほしいな。(夏廉)
- ・湊には、けっこう、すごく、いっぱい、歴史がある。(純夏)
- ・昔の人が作ってくれたものや、工夫して作って活用したものが今はもうないけど、そのおかげで今の湊町があると思う。大事にしていきたいな。
(あゆみ)
- ・調べるのが、少し楽しくなった。(海渡)
- ・昔、湊で活躍した人たちに、感謝の心でいっぱいです。(大輝)

- ・自分たちの町にこんな事があったとは！・・湊川の戦いの一番下の写真に自転車のハンドルが少し写っているから、ちょっと不安。（航輝）
- ・湊で昔活躍した人たちが作った町を、大事に大事に守っていきたいです。（一光）
- ・昔の湊町が、すごくきれいだなと思いました。（美来）
- ・この本を作るのは大変だったけど、楽しかった。（美祐奈）
- ・昔、この湊で、たくさんの人が活躍したことを知ってほしいです。（もも）
- ・湊町を見る目が少し変わったと思います。（勇紀）
- ・くわしくできたなあ。（雄大）
- ・この本も、あと100年ほどしたら、歴史になるのかなー！！（明衣）
- ・昔の湊町には、すごく店があったんだなー。（真）
- ・昔の湊町はどんなところだったのか、みんなに話したい！（菜緒）
- ・北前船のことを初めて知って、北前船が日本全国をまわっていてびっくりした。（菜津紀）
- ・文と写真がめっちゃうまくいった！ 明治時代の湊がどんな町なのかみんなに話したい！（類）
- ・この本なら、未来の小学生にも、湊町のことをわかってもらえると思う。（勝士）
- ・北前船のことを調べるのが楽しかったです。（健斗）
- ・自分たちでこんなことができるとは思わなかった。本ができて、うれしかったです。（渉）



【呉竹文庫の前の階段】

呉竹文庫の前の石段。昔はこの石段が西川（写真のガードレールの向こう）にまで続いていました。そして、河口に停泊した北前船から小さな船で運ばれた荷物を、威勢のいい男たちが、ここから担ぎ上げていたのだそうです。また、ここからたくさんのお米などが、大阪や蝦夷地（北海道）に運び出されていたのでしょう。この階段は、広い海につながる、湊町の玄関でした。

湊町に育った子どもたちが、
広い世界へ旅立つ事を祈っています。
（沼田）

この本を作るのに、お世話になった人たち

荒尾忠司さん 今村美智子さん 中山外喜男さん 二口隆保さん
本多憲夫さん 前 一彦さん 森田隆子さん 安井幹豊さん
安江和弘さん 米田洋三さん (故) 神谷善蔵さん

この本を作るのに参考にさせていただいた本

(写真もたくさん使わせていただきました)

『湊村の歴史』

『湊小学校100周年記念誌』

白山市石川ルーツ交流館、神戸市立博物館、米沢市上杉博物館から、
資料を貸していただきました。

ありがとうございました

『大好き！湊町！！』－私たちが調べた『湊町』の歴史－

白山市立湊小学校2008年度4年1組

本の内容で、間違いや訂正、

もっと子どもたちに伝えたいことなどがありましたら、
湊小沼田までお知らせください。